

イン L 型光 D ケーブル・キャップ W18 セット クリアフォトシステムフィルム付

イン製品のお買い上げ有難う御座います。

イン L 型光 D ケーブル・キャップ セット シリーズ は、マリンノア現象、及びゴースト/フレアの発生を有効に抑制する、「イン クリアフォトシステム (PAT. P.)」を採用した、対応するデジタルカメラハウジング / マウントベースと弊社デジタルカメラ対応ストロボとを接続する光接続ケーブルです。

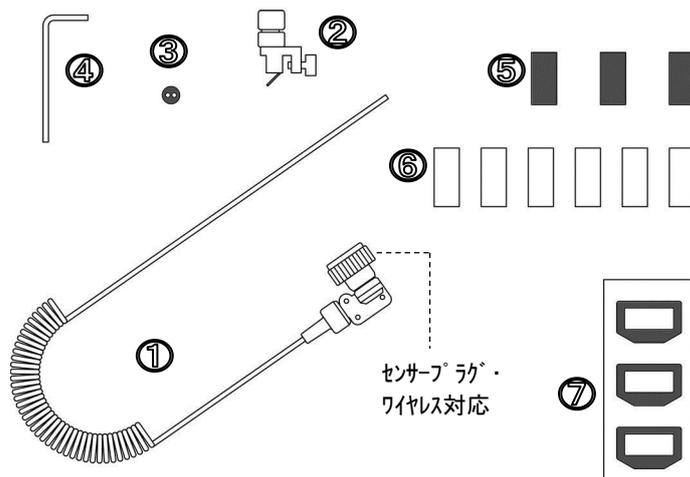
本キャップ W18 セットは、オリンパス社のデジタルカメラ用純正ハウジング「PT-015」、同「PT-026」と弊社「AD マウントベース-PT-026」を組み合わせたシステム、或いはキヤノンのデジタルカメラ用純正ハウジング「WP-DC20」と弊社「M67 マウントベース-DC20」を組み合わせたシステム専用となります。

製品の主な特徴

- 光ファイバーを用いた[光 D ケーブル接続]により、従来のワイヤレスレグ接続に比べ、水面直下や逆光といった外光の多い条件下でも、より確実にレグ発光を可能としています。
- [クリアフォトシステム]を採用して、[光 D ケーブル接続]の確実性を維持しつつ、フロントボディの透明な純正ハウジングの欠点であった、デジタルカメラ内蔵ストロボによるマリンノア現象、及びゴースト/フレアの発生を効果的に抑制し、クリアな画像を得る事が可能です。
- ストロボとの接続に使用する「L 型光 D ケーブル」を 2 本まで固定可能な為、2 灯システムにも容易に対応可能です。

製品内訳

・ L 型光 D ケーブル ①	× 1
・ キャップ W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39	× 1
カメラユニット本体 ②	× 1
光ガイドキャップ WS	× 1
キャップ W5/W7/W9/W10/W14/W15/W18/ W21/W24/W26/W32/W39/W46/W47	× 1
カメラ	× 1
光ガイドミラー S	× 1
キャップ固定ダials	× 1
光ファイバ固定ダials	× 1
光ファイバ固定ゴム	× 1
カメラ固定ネジ	× 2
・ 予備光ファイバ固定ゴム ③	× 1
・ 六角レンチ ④	× 1
・ クリアフォトフィルム ⑤	× 3
・ 保護フィルム ⑥	× 6
・ フィルムシール ⑦	× 3
・ 使用説明書(本書)	× 1



対応カメラハウジング / マウントベース (2018 年 7 月現在)

- ・ オリンパス PT-015
- ・ オリンパス PT-026 + イン AD マウントベース-PT-026
- ・ キヤノン WP-DC20 + イン M67 マウントベース-DC20

対応ストロボ (2018 年 7 月現在)

L 型光 D ケーブルをそのまま、取付け可能な機種(ワイヤレス対応、ストロボ)

- ・ イン Z-330、S-2000、Z-240 【Type4】、D-2000 【Type4】

L 型光 D ケーブルのセンサーブラグを、「センサーブラグ・ワイヤレス非対応」(別売)へ交換する必要がある機種(ワイヤレス非対応、ストロボ) (※)

- ・ イン Z-240 【Type3/Type2/Type1】、D-2000 【Type3/Type2/Type1】
D-2000W、D-2000Wn、D-2000S、D-180、D-180S、Z-220F、Z-220、Z-220S
- ・ イン TTL 調光センサー Z + イン Z-22
- ・ イン TTL 調光センサー SB + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イン TTL 調光センサー YS + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イン フォーカスライトコントローラー + イン Z-220F/Z-220S/Z-220/Z-22



「センサーブラグ・ワイヤレス非対応」
【別売】

(※) 交換方法については、「センサーブラグ・ワイヤレス非対応」付属の「ストロボ側 L 型ケーブル仕様変更手順書」をご参照の上、センサーブラグの交換を行ってからご使用下さい。

接続方法 : 本製品による光 D ケーブル接続には、以下の 2 パターンが可能です。撮影条件やご使用用途により、適宜お選び頂けますが、通常は (A) 接続をお勧め致します。

- (A) **クリアフォト接続** : クリアフォトシステムを用いた通常の接続法。(※) 【第一選択】
- (B) **従来接続** : カメラ単独での撮影(内蔵ストロボ ON)を行う場合が多く、その都度クリアフォトフィルムを外す事が困難な場合。(※※) 【第二選択】
- (C) **AD マウントベースの拡散板を使用・クリアフォト接続** : PT-026 の場合であって、遮光板を使用する事が困難な場合。(※) 【特殊用途】
- (D) **AD マウントベースの拡散板を使用・従来接続** : PT-026 の場合であって、遮光板/クリアフォトシステム共に用いない接続法。マクロ撮影などの際、カメラ内蔵ストロボ光を使用したい場合に選択します。(※※) 【特定用途】

(接続方法続き)

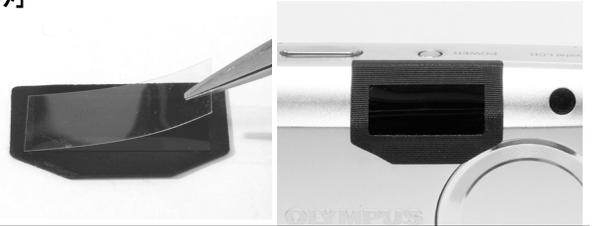
- ※ : クリアフォトシステムのご使用には、タビング毎の点検、及び劣化前の交換が必要です。消耗品である、クリアフォトフィルム/保護フィルムが劣化した状態のまま撮影を続けると、カメラ内蔵ストロボ部も同様に劣化する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書“クリアフォトフィルム/保護フィルムの点検作業について”の項をご確認下さい。
- ※※ : 上記クリアフォトシステムの点検/交換が面倒な場合のみ、クリアフォトシステムを使用しない事により、調光精度が低下したり、組み合わせるオプションによっては得られる画像に問題点が発生する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書末の囲み記事をご確認下さい。

取り付け方法

- ・ **フィルムユニットを準備し、カメラに装着します [接続法 (A) のみ]**

接続法 (A) / (C) のみ

粘着面を上にしたフィルムシールに、クリアフォトフィルム(黒色)、保護フィルム(透明)各 1 枚を順に貼り付けます。保護フィルムはカメラ内蔵ストロボを保護する為の物ですので、ストロボに接する側(内側)に貼り付けて下さい。フィルムユニットを、カメラの形状に合わせて内蔵ストロボ部へ貼り付けます。

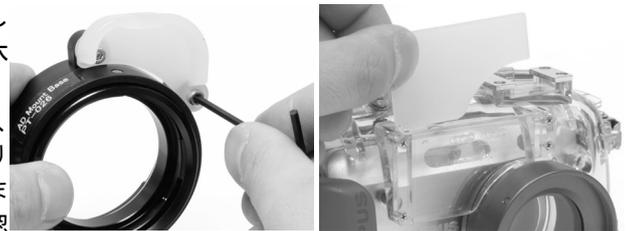


フィルムユニットを貼り付けた S1 IS は、内蔵ストロボを収納する事が出来ません(内蔵ストロボが体アップアップした状態でも、WP-DC20 の外部から強制発光/発光禁止の切替を行う事は可能です)。ご留意下さい。ご使用後に内蔵ストロボを収納する場合、フィルムユニットを取り外して下さい。外したフィルムユニットは、次回ご使用時までフィルムシールの台紙に貼り戻しておく事をお勧めします。

接続法 (A) / (B) / (C) / (D)
PT-026 の場合

- ・ **AD マウントベース・PT-026、および PT-026 の拡散板を取り外します**

PT-026 から一旦、AD マウントベース・PT-026 を取り外し AD マウントユニットを構成している拡散板を、付属の六角レンチを用いて取り外します。次に、PT-026 に装備された「拡散板」を取り外し、その後、PT-026 に AD マウントベース・PT-026 を再度取り付けます。AD マウントベース・PT-026 の着脱法につきましては、AD マウントベース付属の使用説明書をご確認下さい。



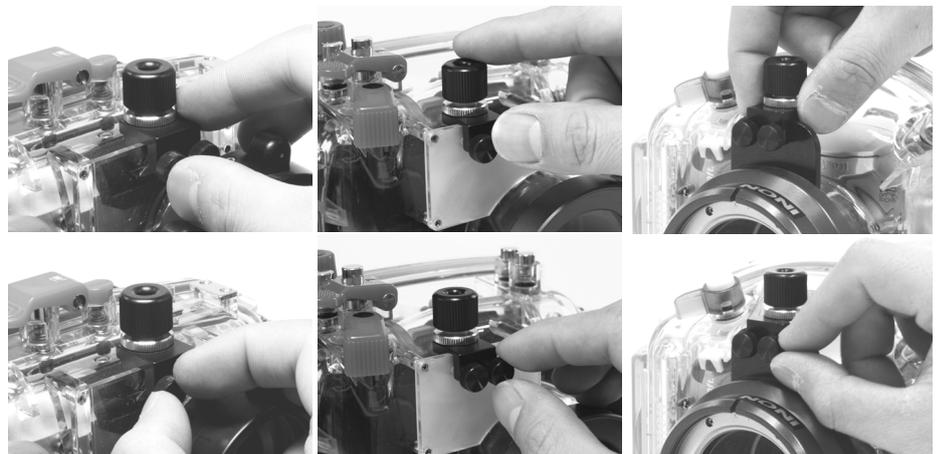
接続法 (A) / (B) / (C) / (D)

- ・ **キャップ W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39 レルゲユニット本体をハウジングへ取り付けます**

各ハウジングごとに、下記の部分へ、キャップ W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39 レルゲユニット本体を取り付けます。

- ・ PT-026: PT-026 の『拡散板カバー(拡散板を取り外した後の透明の板状部品)』部分
- ・ PT-015: PT-015 の『拡散板/拡散板カバー』部分
- ・ WP-DC20: M67 マウントベース・DC20 の『遮光板』部分

レルゲ固定ネジを指で締め、固定します。強く締め過ぎると、拡散板が破損しますので、ご注意下さい。



PT-026 の場合

PT-015 の場合

WP-DC20 の場合

- ・ **L 型光 D ケーブルを取り付けます**

光ファイバ固定ダイヤルを左図の様に回して緩めてから、光ファイバ固定ゴムの穴に L 型光 D ケーブルのケーブル断端側を差

接続法 (A) / (B) / (C) / (D)

し込み、奥まで達している事を確認後、光ファイバ固定ダイヤルを押し込んで固定します。L型光Dケーブルは1本のみでも、2本同時でも、どちらでも固定する事が可能です。

L型光Dケーブルのケーブル側断端の取付が終了した後、コネクタ側をストームのセンサー部に取り付けます。



使用上の注意

- ・ L型光Dケーブルをハウジングやストームに接続した状態で、ケーブルを持ってそれらを持ち運ぶなどすると、光ファイバがL型コネクタから外れたり、ストーム/L型コネクタ/光ファイバ等が破損する恐れがあります。このような扱いは避けて下さい。
- ・ フィルムシール、クリアフィルム、保護フィルムは複数回の使用が可能です。陸上での使用等、フィルムユニットを取り外した際には、フィルムシールの台紙に張り戻して保存する事をお勧めします。フィルムシールの粘着力がなくなった/クリアフィルムが破損した等、交換が必要な場合には、オプションの「クリアフィルム 光Dケーブル・キャップ W5/W9/W16/W18/W20 セット用」をご使用下さい。

クリアフィルム/保護フィルムの点検作業について

- ・ クリアフィルムは赤外線のみを透過させるフィルターであり、通常は内部に熱を蓄積する事はありませんが、当製品は基本的に消耗品であり、使用を繰り返す事により赤外線の透過性能が低下します。カメラ内蔵ストームの発光回数一回当たりの発光量が、他機種と比べて大きいデジタルカメラにてクリアフィルムをお使い頂

- ・ デバイス後必ず【クリアフィルム/保護フィルム】の状態をご確認頂き、【クリアフィルム/保護フィルム】に焼け/溶融の兆しが発生する前に新品と交換して下さい。
- ・ 【クリアフィルム/保護フィルム】の劣化を抑えるため、カメラ内蔵ストームがフル発光するような状況での撮影はなるべくお控え下さい。

く場合、あるいは、(弊社ストームにはアドバンスドキャンセル回路が搭載されており、一般的なご使用条件では発生する事はないと考えられますが)カメラ内蔵ストームを常にフル発光させるような場合は、発光時の熱による劣化が相対的に著しくなり、使用を重ねる事で焼け/溶解といった現象を起こし、光を透過させない状態となります。この状態のままご使用を続けられますと、カメラ内蔵ストームユニット内部に熱が蓄積され続け、結果的にカメラ本体の内蔵ストームプリズム部に熱変形が生じる恐れがあります(※)。

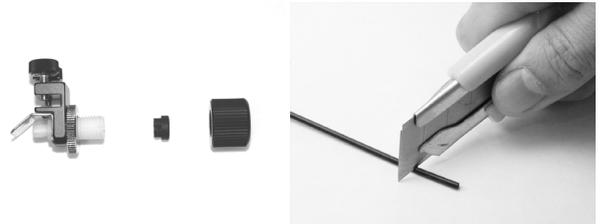
- ・ 当現象を回避するために、弊社製クリアフィルムを貼付けてご使用頂く場合[接続法(A)/(C)でご使用頂く場合]、必ず、下記要領にてご使用毎の点検/交換作業、及びご使用状況の確認を行って下さい。

- ・ クリアフィルムを使用せずにご使用頂く[接続法(B)/(D)でご使用頂く]事で、クリアフィルム/保護フィルムの定期的な点検/交換作業を必要とせずにご使用頂く事が可能となります。但し、クリアフィルムを使用した場合に比べ、調光精度が低下したり、組み合わせるオプションによっては得られる画像に問題点が発生する可能性があります。ご留意下さい。各制限事項の詳細は、本使用説明書末の困み記事をご参照下さい。[接続法(D)]より、該現象を抑制可能な[接続法(B)]でご使用される事をお勧めします。
- ※ 2014年4月現在、カメラ内蔵ストームの発光回数一回当たりの発光量が他機種と比べて大きいC-5060WZ/C-7070WZの2機種においてのみ、該現象の発生を確認しており、その他機種での該現象の発生は確認していませんが、ご使用条件等によっては、同様な症状が発生する可能性があります。ご留意下さい。

メンテナンスについて

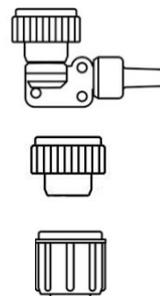
- ・ ご使用後は、真水中(30℃以下)に数時間静置して塩分等をよく取り除いた後、エアガン等で水滴を吹き飛ばし、直射日光の当たらない、風通しの良い場所に置き、乾燥させて下さい(完全乾燥には数日掛かります)。
- ・ 特に光ケーブル両端の光ファイバ断面は、キャップ W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39 剥が-ユニット本体から外した状態で丁寧に洗い、塩分を良く落して下さい。光Dケーブルの断面に傷が付いたり、塩分が残留して曇ってしまったりと、信号がうまく伝わらなくなる場合があります。
- ・ 取り外したキャップ W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39 剥が-ユニット本体は、構成部品を無くさない様注意して下さい。
- ・ 上述の理由等で信号が伝わり難くなった場合や、ケーブルを短くして使用するには、必要に応じて光ファイバを切る事が出来ます(L型コネクタ側の光ファイバを切断する場合は、弊社ホームページの『TOP>テクニカル>L型光ケーブル分解組立』にて公開しております『L型コネクタ仕様変更手順書』をご参照下さい)。光Dケーブルの切断には、カミシヤカッターナイフ等、鋭利な刃物を使って下さい。

切断の際、光Dケーブルの中心にある光ファイバの切断面に凹凸が出来ると、光信号が伝わり難くなります。切断前の状態よりも断面の凹凸が酷くなった場合や、切断後に信号が伝わり難くなった場合は、切断作業をやり直して下さい。



- 各作業等を行うに当たって** :
- 本書で説明を行っている「各作業」等は、**ﾌﾞﾚｯﾀﾞの製造元であるｸﾘﾝﾊﾞｰ販売、或いはｷﾞﾝ/ｷﾞﾝ販売**が関知している物ではありません。「各作業」等についてのご質問、お問合せ等は、決して**ｸﾘﾝﾊﾞｰ販売、或いはｷﾞﾝ/ｷﾞﾝ販売**に行わないで下さい。また、同様の理由により、「各作業等」を行う場合、お客様ご自身が全ての責任を負う必要がある事をご確認下さい。
 - 「各作業」等を行う事によって、**ﾌﾞﾚｯﾀﾞの保障期間内であっても、ｸﾘﾝﾊﾞｰ販売、或いはｷﾞﾝ/ｷﾞﾝ販売の無償修理を受ける事が出来なくなる可能性があります。**予めご了承下さい。**ﾌﾞﾚｯﾀﾞの保証条項詳細につきましては、各ﾌﾞﾚｯﾀﾞ付属の使用説明書/保証書をご確認下さい。**
 - 万一、「各作業等」を行う事によって不具合(**ﾌﾞﾚｯﾀﾞ本体、ﾌﾞﾚｯﾀﾞ付属品、ﾌﾞﾚｯﾀﾞ内にセットするｶﾞﾗ本体等の不具合等**)が生じた場合、弊社は一切、その責任を負いかねます。
 - 万一、「各作業等」を行う事によって浸水等の不具合が生じ、この不具合に起因する、付随的損害(撮影に要した諸費用及び撮影により得べかりし利益の喪失等)が発生した場合においても、弊社は一切、その責任を負いかねます。
 - 以上の注意事項、及び補償条項について、ご納得頂けない場合には、「各作業等」を行わないで下さい。未使用の場合に限り、関連製品の返品を受け付けます。詳細につきましては、弊社までお問合せ下さい。**

- オプションについて** :
- L型光Dケーブル** ￥6,200-(税抜)
製品内訳画像中の、①です。対応するストロボ2台と、W5/W7/W10/W15/W18/W28/W32/W39 ｶﾞﾗ-ユニット本体とを直接接続する際、追加が必要となります。
 - 交換用光ファイバ-L型光Dケーブル/L型光ケーブルM用** ￥4,000-(税抜)
製品内訳画像中の、①からストロボ取付用のｺﾈｸﾀを除いた物です。
 - クリアフィルム 光Dケーブル・キャップ W5/W9/W16/W18/W20 セット用** ￥1,500-(税抜)
製品内訳画像中の、⑤、⑥、及び⑦のセットです。
 - キャップ W18 ｶﾞﾗ-ユニット(予備部品付)** ￥3,800-(税抜)
製品内訳画像中の、②、③、及び④のセットです。
 - ストロボ側L型ｺﾈｸﾀｷｯﾄ(ワイヤレス対応) [保守部品]** ￥2,500-(税抜)
製品内訳図中の、①から光ファイバを除いたｺﾈｸﾀユニットの交換ｷｯﾄです。
 - センサーラック・ワイヤレス対応 [保守部品]** ￥600-(税抜)
本製品に標準装備されている、ワイヤレス対応、ストロボ用のセンサーラックです。
 - センサーラック・ワイヤレス非対応 [保守部品]** ￥600-(税抜)
ワイヤレス非対応、ストロボ用のセンサーラックです。本製品を、ワイヤレス非対応、ストロボ(本書内「接続対応ストロボ」の項参照)に使用する場合に、本製品のセンサーラック・ワイヤレス対応と交換します。



有限会社 イノン 〒247-0061 神奈川県鎌倉市台 2-18-9
Tel. 0467-48-2174 / Fax. 0467-48-2178
E-mail support@inon.co.jp / URL http://www.inon.co.jp/
2018年7月

※ 外部ストロボを使用する際の注意点、特に、クリアシステムを用いないで外部ストロボをご使用の際には・・・

クリアシステムを用いずに、外部ストロボを(ｶﾞﾗ内蔵ストロボのスレーブストロボとして)使用する場合や、他の外部ストロボと組み合わせて2灯以上の増灯を行う場合、撮影条件によっては、得られる**画像がオーバーとなる可能性があります。**

この現象は、(ｶﾞﾗ内蔵ストロボを含め)多灯とする事でストロボシステム合計の最小発光光量が大きくなり、調光範囲の最短側が長くなってしまふ事に起因します。**特に、特定の(内蔵ストロボの最小発光光量が比較的大きい)ｶﾞﾗで、クリアシステムを用いず増灯を行い、最短撮影距離付近の撮影を行った場合、この現象が顕著に表れます**(お手元のｶﾞﾗの最小発光光量は、ｶﾞﾗ単体で最短撮影距離付近の内蔵ストロボ撮影を行いご確認ください)。以下の対策を行う事で、適正露出とする事が出来ます。ご検討下さい。

- クリアシステムを使用する
- ｶﾞﾗの絞りをより絞った状態に変更する
- ストロボの位置を被写体から遠ざける
- 外部ストロボに減光板等を取り付け、光量を落とす[対応する場合のみ/外部ストロボ付属の使用説明書をご確認下さい。]

また、この接続方法では、ｶﾞﾗ内蔵ストロボの光が完全に遮光されない為、レンズ前のｺﾞﾐ/浮遊物に可視光成分が反射して、**ゴースト/フレア現象が発生しやすくなる可能性があります。**ご留意下さい。

※ クリアシステムを用いないで内蔵ストロボを発光させ、アタッチメントレンズをご使用の際には・・・

クリアシステムを用いずに、アタッチメントレンズを取り付けた状態で内蔵ストロボを発光させた場合、撮影条件、ｶﾞﾗ/ﾊﾞｼﾞﾝｸﾞ/ﾏｳﾝﾄﾞ-ｽ/ﾚﾝｽﾞ/ﾌﾞﾗﾀﾞｰ-ﾊﾞｰｽの組み合わせ等によっては、得られる**画像にｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱが発生する可能性があります。**

この現象は、透明なﾊﾞｼﾞﾝｸﾞを通過したり、ﾚﾝｽﾞﾎｰﾄ内部を通過したりした内蔵ストロボ光が、アタッチメントレンズのﾊﾞｼﾞﾝｸﾞ取り付け部側から進入/反射し、有害光として写り込む事に起因します。このような現象が発生する場合には、**クリアシステムを用いた外部ストロボ増灯をお勧め致します。クリアシステムを用いない内蔵ストロボのみでの撮影はお勧め致しません。**止むを得ず内蔵ストロボのみでの撮影を行われる場合には、アタッチメントレンズ取り付け部側からの有害光の進入を防ぐ様、注意深く遮光を行う事により、ｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱの発生を低減出来る可能性があります。ご検討下さい。**[この作業を行う場合、必ず「取付作業等を行うに当たって」をご確認頂き、内容にご同意下さい]**